2022年2月　馬渕祐太

船井情報科学振興財団　第 10 回報告書

　Cornell University、Department of Neurobiology and Behavior に所属し、神経科学を専攻しています。実験やデータ解析に追われ報告書の提出が遅くなってしまいました。申し訳ありません。研究室と自宅を往復する日々なので、特に目新しいことがあるわけではないですが、ここ最近の出来事について書こうと思います。

1. 日常生活について

　前回の報告書を見返してみると、Cornellでは6月1日を以って学内でのマスクの着用が不要となりました、と書いていましたが、デルタ株の蔓延に伴って8月にはマスクの着用が再度義務付けられました。2021年の秋学期からはCornellではほぼすべての授業が対面式で行われるようになり、これに伴ってコロナの感染者の増加が予想されました。しかし、いざ授業が始まってみると想定したほどの感染者の増加はなく、大学は落ち着いた雰囲気でした。一方で、2021年末の期末テストの時期になると、学部生を中心に1週間で900人を超える感染者が出たことで、一時的に関係者以外の大学への立ち入りの禁止などのルールが設けられました。Cornellでの感染者の急増はアメリカの大手メディアでも取り上げられていましたが、日本のYahooニュースにもこの出来事が取り上げられているのを見つけたときは驚きました。学部生にとっては冬休みの帰省のタイミングだったので、学部生がキャンパスを離れたら、新規感染者の数は減るだろうと思っていましたが、その後数週間は感染者がなかなか減らず、同じ学部内でも複数の感染者出ました。幸いにも、今のところ自分を含め研究室内ではコロナの感染者が出ていないので、濃厚接触による自宅待機などは経験していません。現在では、学内での感染者はかなり減っているので、学部生に課されていた週に一度のコロナの検査なども解除されているようです。

2. 研究生活について

　2回前の報告書から、論文を仕上げる段階に近づいてきた、といったことを書いていますが、いまだに論文の提出には至っていません… 諸先輩方の報告書でも同じようなことを述べているのを散見しましたが、その状況にまさに直面しています。2年ほど前から指導教官に論文をまとめる段階が近いと言われていましたが、論文の落としどころを見つけるのにかなりの時間を費やしてしまっています。とは言っても、Ph.D.5年目で、卒業のこともあるので、今学期中には論文を書き終えて提出したいと考えています。

3. 最後に

幸いにも自分は研究に集中することができていますが、コロナウィルスだけでなく、世界的に情勢が不安定となっています。みなさんが安全で健康に過ごせますよう願っています。最後になりましたが、常日頃よりご支援頂いている船井情報科学振興財団に感謝致します。